

おししさん



相さきえ、
相さきえられつつ
独生 独死 独去 独来
ひとり来て、
ひとり帰る旅なれば
つれていかれず、
つれられもせず



本願寺 函館別院

函館市東川町12番12号 ☎(0138)23-0647 FAX(0138)23-2630



輪番
樟原 宏朗

新年のごあいさつ

新しい年の初めのおたよりで、このような内容でどうかなあ、という思案をかさねて寄稿しました。

その先生は、デンワでおつしやいました。シンゾウのはたらきを回復できない状態である。とりかえることもできない。そのときの判断をすれば、もうすでに二年間、もうけものをしているというべきであろうということでした。

なんとか都合よくいかないものかなと、つくつたり、こわしたりをくりかえしています。

私たちは周辺の地球、宇宙、そして己のことが、気になつてしかたがないとか、そんなこと気になつてしかたがない——ということもありません。

どうも年末年始は、こうして過ぎてゆくようです。

(遺稿)

輪番、樟原宏朗殿には、入院加療中のところ、十二月二十一日往生の素懐を遂げられました。
在任中のご厚情をお礼申し上げます。



副輪番
末澤 静覚

副輪番として

昭和五十年初期金山副輪番以来、正規の副輪番がおりませんでした。ご門徒の皆様、総代役員の方々、函館近郊の御寺院の方々、函館仏教会の方々の、推薦とご指導のもと、この十一月一日付で正式に副輪番の発令があり当別院輪番の補佐役として、職員の統括として、永い歴史につちかわれた西別院の護法を受継ぎ、み仏の教えがご門徒の皆様一人一人の心の糧となり実となるよう、さらには函館の各界各層の方々との交流の中に仏法の正しさ、生活の規範として信心が伝わりますよう協力をして、身を粉にして職員と共に歩んでゆく所存でございます。

ご門徒の皆様方のご支援とみ法のもとに集える寺院づくりに励み、この重大な責務をまい進いたしたいと存じます。

合掌

講恩報忌正御



ご開山様は、弘長二年(一二六二)十二月二十八日、九十歳の生涯を京都でとじられました。そしてご開山様の遺徳を偲んで毎月の二十八日に、門徒達によってお念仏の集いが営まれるようになり、これがさらに大きく広がり、本願寺第三世の覚如上人により報恩講の基本となる形が明らかにされました。

報恩講さん、本堂に親しみのある言葉です。そしてこの言葉は念仏者としての尊い生き方の伝統として伝えられました。お念仏を喜ぶ人ほど「おかげさま」ありがたい、「もつたいない」といった言葉がしみじみと口をついて出ると、ある方がおっしゃっています。

あらゆるもののお恵みにより生かされていることへの感謝の心のあらわれであり、本来どの様な恩恵にも浴する資格のない私という深い反省につらぬかれているといえます。

どうぞお参り下さい。

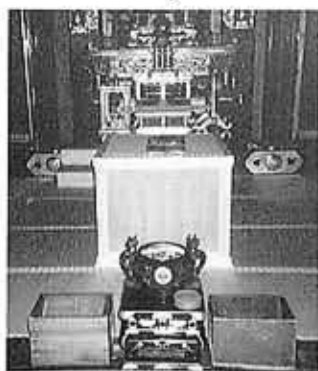
日時 平成五年一月十四日(木)

一月十五日(金)
一月十六日(土)

午後一時半より本堂にて

布教用高座について

「皆様おなじみの落語でござる」と高座で語りかけるあの高座、実は仏教における説教をする台を高座といい、もともと、落語も説教師から分かれて芸能になったもので、仏の教えを、笑わせたり、泣かせたりの中に信心を持たすように説いたものです。特に浄土真宗の教えは、法を聞く「聞法」が始まって聞法に終ると申しますように、先人の方々は布教活動に力をそそがれて、寺での布教を高座に登って語られたことです。寺院布教も現代では講演方式が多く、過去に使われた高座も失なわれて来ましたが、今回平成四年十月の報恩講に高座を造り、高座布教をしていただきました。高座からの語りかけられる法話にひと味違うものを感じてられたことです。今後布教される講師の方によって、どしどし高座布教を願いたいものです。



家庭法座開催のお知らせ(土曜法座)

■とき/1月30日(土)

午後1時半～3時半

・浄土三部経についてパートII
「観無量壽経について」

■とき/2月27日(土)

午後1時半～3時半

・浄土三部経についてパートII
「阿弥陀経壽経について」

※他地域でも申し出がありましたら、実施いたします。

●ごあんない図●



常例布教

【二月・二月】



十一月 午後一時半(あそか念)
十二月 (法友念)
十三日 (先真護)
十四・十六日 午後一時半
十六日会 午後十二時半

木院

●布教使

二月 両館市富岡町
一月 正光寺住職 高松周翠師

上磯町七重浜 渡邊谷龍師

宣法寺副住職

教化サークル

【二月・二月】

婦人会 担当 末澤 伸田

一月二十三日(土) 新年会

二月二十三日(火) 例会

仏教壮年会

担当 末澤 小笠原

一月二十三日(土) 新年会

二月 研修会

覚信尼会 担当 神田

一月十九日(火) 新年会

二月 九日(火) 研修会

白蓮会 担当 利国

十二月 午後六時半

ボーイスカウト 担当 千葉、芝田

毎月プログラム発行

仏教に学ぶ会 担当 末澤、利国

八日・十八日・二十八日 午後六時半

仏教青年会(花の金曜会) 担当 芝田

一月二十九日(金)・三十日(土)

教区主催温泉説法参加

二月 後日連絡

二月 後日連絡



- 1月1日(金)～10日(日)……末澤副輪委
- 1月11日(月)～20日(水)……千葉 参勤
- 1月21日(木)～31日(日)……黒田 参勤
- 2月1日(月)～10日(水)……神田 承任
- 2月11日(木)～20日(土)……利国 参勤
- 2月21日(日)～28日(日)……芝田 承任
- 3月1日(月)～10日(水)……上戸 承任

☎お西さんしあわせ電話☎
ちよつと耳をかたむけてみませんか
(0138)27局2424番



お餅つき誕生会



今日はお餅つきの日。前の日から「先生、あしたはベッタンベッタンってお餅をつく日だね」と楽しみにしていた子ども達は、朝、幼稚園の玄関に入るとすぐに「うわあ、お餅の匂いがするー。」と言い、わくわくした表情を見せていました。

子ども達はねじりはち巻きをし、はっぴを着ると朝よりも更にわくわくした表情を見せていました。子ども達のちっちゃな手であの重たい杵を一生懸命持ち、「ベッタン、ベッタン」と言いながらお餅をつく姿には何とも言えないかわいらしさがありました。

お餅つきが終わってから、一人の男の子が私の頬をつまみ、「小島先生のほっぺってお餅みたい」と言ったのには思わず笑ってしまいました。

子ども達は、自分の手でお餅をつき、自分の手でまるめたお餅を食べて、本当においしかったことでしょう。



みんなほとけの子



的場町にお住まいの宮本恵美子さんのお孫さんの麻衣ちゃん(3歳)は、半年前から浄土真宗の生活信条を覚え、おつとめの後一緒に祈っています。とてもほほえましく、仏様も喜んでいらっしゃるのではないかと思います。



家庭法座「土曜の会」

熊谷 淑子

「五濁悪世」と言われる比の世の中で、老病死の苦をかかえて生きなければならぬこの私、「凡夫」が「凡夫」のまま救われるという、阿弥陀如来の御本願のありがたさ、



かたじけなさを信じてご聴聞させていただいております。おみのりを聴聞し味あわせていただく場は「お寺」ですが「家庭」であっても出来るのではないかと、日常生活を送る家庭で、気取らず、普段着のままご聴聞が出来たらいいなど考えて、平成4年4月から家庭法座「土曜の会」を発足させました。狭い部屋で膝つき合せ、仏典物語のビデオを視賞し、その中に込められている仏様の教えを味あわせていただいております。少しずつ参加する御同行もふえ、ありがたい事でございます。これも私のはからいでは御座いません。「弥陀の本願まことにおはしまさば、釈尊の説教虚言なるべからず、仏説まことにおはしまさば、善導の御釈虚言したまうべからず、善導の御釈まことならば法然の仰せ



さらごとならんや、法然の仰せまことならば親鸞が申すむね、またもってむなしかるべからず候ふかと歎異抄によって聖人のみ心があるからにされておりますが、阿弥陀如来さまのお働きによって、皆様、私宅において下さると感謝いたしております。

平成5年もこの法座は継続し、まことの教えをさらに深く味わっていく所存でございます。 合掌